資料

カメルーンおよびコートジボアール
でみられたクロバエ科, コブバエ属,
Cordylobia 幼虫によるハエ症
myiasis 3 例

堀 栄太郎¹⁾ 山口 勝幸¹⁾ 和田 芳武²⁾
山 浦 常²⁾ 加納 六郎³⁾ 篠 永 哲³⁾
藤野 信之⁴⁾

¹⁾ 埼玉医科大学寄生虫学教室
(〒350-04 埼玉県入間郡毛呂山町)

²⁾ 東京女子医科大学寄生虫学教室
(〒162 東京都新宿区市谷河田町 10)

³⁾ 東京医科歯科大学医学部医動物学教室
(〒113 東京都文京区湯島 1-5-45)

⁴⁾ 東京女子医科大学消化器内科
(〒162 東京都新宿区市谷河田町 10)

(受領: 1983 年 7 月 4 日)

Three human cases of myiasis caused
by the larvae of *Cordylobia*
(Calliphoridae) in Cameroun
and Côte d'Ivoire,
West Africa

Eitaro HORI,¹⁾ Katsuyuki YAMAGUCHI,¹⁾
Yoshitake WADA,²⁾ Hisashi YAMAURA,²⁾
Rokuro KANO,³⁾ Satoshi SHINONAGA³⁾
and Nobuyuki FUJINO⁴⁾

¹⁾ Department of Parasitology, Saitama
Medical School, Moroyama-cho, Iruma-
gun, Saitama 350-04, Japan

²⁾ Department of Parasitology, Tokyo Women's
Medical College, Ichigayakawada-cho,
Shinjyuku-ku, Tokyo 162, Japan

³⁾ Department of Medical Zoology, Faculty
of Medicine, Tokyo Medical and Dental
University, Yushima, Bunkyo-ku,
Tokyo 113, Japan

⁴⁾ Institute of Gastroenterology, Tokyo Women's
Medical College, Ichigayakawada-cho,
Shinjyuku-ku, Tokyo 162, Japan

Key words: human myiasis, *Cordylobia*,
Cameroun, Côte d'Ivoire, Africa.

西アフリカ, カメルーンとコートジボアールでみら

れたクロバエ科, コブバエ属, *Cordylobia* 2 種による
myiasis 3 症例を経験したので報告する。

1. 症 例

症例 1 ○森○代, 35 歳女子, 研究員:

経過: 1979 年, 6 月から 9 月までカメルーン西部 (Man-
fe その近隣) に調査研究のため滞在中に, 右上眼瞼部に
2 個の疣様の腫瘤に気付く. その後 1 週間くらいでしだ
いに腫脹は大きくなり, 2 つの腫瘤がつながったように
大きく腫れ, 眼を覆うようになった. そして, その腫瘤
に小さな孔がみられるようになった. 激しい痛みを伴う
日が 10 日くらい続き, 腫瘤の内側に動いているものが
わかるようになった. 腫瘤の大きさは約 4 × 3 cm であ
った (Fig. 1). 2 日後, 自分の手指で押さえて, 孔より
動いている虫体を 2 匹取り出した. 取り出した虫体は乳
白色であった. 虫体は 70 % アルコールに浸漬し, 保存
した. 虫体摘出後は痛みと腫れはしだいに回復した. 帰
国後, 摘出した幼虫は埼玉医科大学寄生虫学教室に送付
され, 同定を依頼された:

症例 2, 3 神○浩○, 6 歳男子, 神○紀○, 2 歳女
子の兄妹.

経過: 1981 年 2 月末より 1982 年 8 月 2 日までコート
・ジボアールの Abidjan 市に在住. 帰国 1 日前, 兄
は前頭部 2 か所と右肩甲部に 1 か所の 3 か所, 妹は後頭
部に 3 か所の径約 2 cm の腫瘤様のものがみられ, 強い
痛みを訴えた. 帰国時 (8 月 2 日), 成田空港検疫所で軟
膏 (成分不明) を塗布, 翌 3 日も痛みが軽減しないので近
くの医院で軟膏 (成分不明) を塗布した. 同夜から 4 日
朝にかけて, それぞれの腫瘤の一部が突出し, そこから
虫体が自然脱出し, 他は両親が押し出し, 計 6 匹の幼虫
を得た. 翌 5 日に東京女子医科大学消化器病センター渡
航者検診部を受診, 各腫瘤部を消毒し, 痛みはなくなっ
た. これらの幼虫は同学寄生虫学教室に持ち込まれた.

2. 虫 体 所 見

症例 1 の虫体: 円筒状, 黄褐色 (アルコール浸漬のた
めか) を呈し, 大きさは体長 17 mm, 体幅 7.0 mm およ
び体長 15 mm, 体幅 5.0 mm であった (Fig. 2). 体表
面には多数の棘が第 8 節までみられ, 第 9 節にはまばら
にみられる. 棘は尾端の方に向かって生えている (Fig.
4). 後方気門の裂孔は 3 本であることから 3 齢幼虫で,
強い屈曲がみられ, その中の 1 本は途中で切れているの
がみられる (Fig. 3). 体表面の棘の形態, 後方気門の裂
孔の屈曲の形などからクロバエ科, コブバエ属のロダイ
ンコブバエ *Cordylobia rodhaini* Gedoelst, 1909 の 3
齢幼虫と同定した.

症例2, 3の虫体: 円筒状, 体長6~12 mm, 全体的に黄白色を呈している。体表面には褐色の短い小棘が第8節まで多数みられ, 第9節以後はほとんどみられない。小棘は尾端の方に向かって生えている (Fig. 6)。後方気門の裂孔は3本であることから3齢幼虫で, ゆるやかな波状の屈曲を呈している (Fig. 5)。咽頭骨格の側鉤は長く, ゆるやかな彎曲を示している (Fig. 7)。体表面の小棘, 後方気門の裂孔, 咽頭骨格の側鉤などからクロバエ科, コブバエ属, ヒトクイバエ *Cordylobia anthropophaga* (Blanchard, 1893) の3齢幼虫と同定した。

3. 考 察

クロバエ科のコブバエ属 *Cordylobia* によるハエ症はサハラ砂漠から南の, 西アフリカから南アフリカにかけてみられる。Zumt (1965) によると *Cordylobia rodhaini* はアフリカの熱帯雨林地域の森林に生息し, 生活史はヒトクイバエとまったく同様である。成虫雌は朝夕に活動し, 熟した果物や醗酵した野菜や人獣の糞を食べ人獣の排泄物で汚染された乾いた場所に産卵する。このハエはアフリカカモシカ類など10数種の動物からみつがっている。そのうちでも African giant rat (*Crictomys gambianus*) が主要宿主と思われ, 家畜への寄生は知られていない。宿主内での幼虫期間は12~15日だという。ヒト寄生例は稀で一般に1~2匹の寄生であるが, Zumt (1965) によればナイジェリア, Manfe (現在のカメルーン国) の51歳男子の症例では頸と左腕から16個体の幼虫が摘出され, 他の症例では腫瘍は肩, 下眼瞼下, 軀幹, 頭皮にみられたという。このハエによるハエ症では幼虫が大形のためか, ヒトクイバエによるものよりも痛みは激しいという。本症例1では, 右上眼瞼部に症状の腫瘍に気付いてから約2週間あまりで, 動いている虫体に気付く, 幼虫2匹を手で押し出した。この症例は先に述べた症例報告のあった Manfe (カメルーン国) に滞在したことがあり, また Manfe 近隣で, 野外調査を行っており, その時, 偶然に侵入したものと推察される。

一方, 症例2, 3のヒトクイバエ *C. anthropophaga* は中型のハエでサハラ砂漠以南の西アフリカ一帯に広く分布する。Zumt (1965) によればネズミ類が主な宿主

で宿主内での幼虫期間は8~9日であるという。ヒトへの寄生例は多い。家畜の中では犬が重要な保有宿主になるという。また動物で主な寄生部位は足, 尾, 腋窩部で大きな腫脹と浮腫がおこるという。本症例2, 3では頭部, 肩甲部の腫瘍に気付く, 虫体は4日目に自然脱出および両親の手で押し出して摘出された。この症例ではコート・ジブール, Abidjan 市のオフィス街のマンション4階に居住し, ハエなどはほとんど室内に入らなかったという。しかし, 頭部, 肩甲部の腫瘍に気付く6日前の7月25日に友人宅の庭で, その家の子ども達と一緒に土掘りをして遊んだという。この家では犬を飼っており, またこの種のハエは産卵場所として人獣の糞尿で汚染された乾いた土を好むという。おそらくこの場所で感染したものと推察される。

なお, ヒトクイバエのハエ症を加納 (1967) が千葉県血清研究所へ入った東アフリカ産ミドリザル *Vervet monkey* (*Cercopithecus aethiops*) から見いだした報告があるが, *Cordylobia rodhaini* および *C. anthropophaga* 幼虫による日本人の myiasis 症例ははじめてである。

4. ま と め

クロバエ科のコブバエ属, *Cordylobia* の2種による人体寄生のハエ症 myiasis 3症例を報告する。

症例1は35歳日本人女性で1979年, カメルーン西部に滞在し, 激しい痛みを伴う右眼瞼部に腫瘍をみとめた。摘出した2匹の幼虫はコブバエ属, ロダインコブバエ *Cordylobia rodhaini* Gedoelst, 1909の3齢幼虫であった。

症例2, 3は6歳男子と2歳女子の日本人兄妹で, 1982年8月, コート・ジブール, Abidjan 市に滞在し, 兄は前頭部および肩甲部, 妹は後頭部に強い痛みを伴う腫瘍をみとめた。摘出した計6匹の幼虫はコブバエ属, ヒトクイバエ *Cordylobia anthropophaga* (Blanchard, 1893) の3齢幼虫であった。

おわりに, 種々ご協力いただいた東京女子医科大学消化器病センター小幡裕教授をはじめ, 渡航者検診関係者各位, 同学寄生虫学教室白坂竜曠教授はじめ教職員各位に感謝する。

Fig. 1 The lesion on the right upper-eyelid in case 1.

Figs. 2-4 The third stage larvae of *Cordylobia rodhaini* found from the lesion on the right upper-eyelid in case 1.

2, appearance of larvae; 3, posterior spiracles; 4, spines on body surface.

Figs. 5-7 One of the third stage larvae of *Cordylobia anthropophaga* found from the lesions on the head/shoulder in cases 2 and 3.

5, posterior spiracles; 6, spines on body surface; 7, cephalopharyngeal sclerite.

引用文献

加納六郎 (1967) : 日本にはいった動物寄生バエ。
インセクトリウム, 4(3), 12.

Zumpt, F. (1965) : *Myiasis in Man and Animals in the World*, 267 pp., Butterworths, London.

Summary

Three cases of human myiasis due to two species of *Cordylobia* were reported.

In case 1, the patient was a 35 year old Japanese woman who had been in West Cameroun

in 1979. A mass attended with a severe pain was found in the right upper-eyelid. Two maggots taken out from the lesion were identified as the third-stage larvae of *Cordylobia rodhaini* Gedenst, 1909.

In cases 2 and 3, the patients were the siblings, a Japanese boy aged 6 and a Japanese girl aged 2, who had been in Abidjan, Côte d'Ivoire in August 1982. The masses attended with a severe pain were found in the fore-head and shoulder of the boy and in the back of the head of the girl. Six maggots were taken out from the lesions and they were identified as the third-stage larvae of *Cordylobia anthropophaga* (Blanchard, 1893).